

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 南あわじ先端農業技術研究会議
 都道府県 兵庫県
 対象地域 南あわじ市
 対象品目 レタス



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

南あわじ地域は、秋冬期におけるレタス産地であるが、近年の気候変動に伴って作柄の不安定化や病害虫の発生に加え、生産者の高齢化による労力確保など、生産の維持に課題がある。特にヤガ類（ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ等）の発生による被害は増加しており、化学合成農薬による防除が主体となっている。しかし、国が策定した「みどりの食料システム戦略」に照らした環境負荷の低減や薬剤の感受性の低下のリスクを考慮すると、今後、薬剤防除に依存しない総合的防除体系の構築が必要である。そこで、感受性低下のリスクがなく環境負荷が少ないLED黄色灯を利用して対象害虫の被害を低減し、化学合成農薬の削減を進め、レタス産地として維持・向上を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					播種・施肥 畝立て	定植	追肥	収穫 片付け					
技術名					約10日間隔の定期防除								



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					播種・施肥 畝立て	定植	追肥	収穫 片付け					
技術名					LED設置 黄色灯	→							黄色灯によるヤガ類の飛来・行動抑制効果による薬剤防除の低減

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	610	▶ 650	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.35	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.35	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.35	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ LED黄色灯によるヤガ類の防除	・化学農薬の使用回数の削減 ・薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	4	▶ 3	現状の化学肥料使用量の2割削減を目指す。
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証地域生産者、JAあわじ島、南あわじ市、淡路農業技術センター、南淡路農業改良普及センター等関係者が一体となり、以下の取組を進める。
・R4～R6年度の実証試験のデータに基づき、当地域に適した黄色灯の開発、効果検証

関係者の役割

関係者名	農業者	JAあわじ島	南あわじ市	黄色灯メーカー
役割	・黄色灯の設置 ・黄色灯の効果確認	・実証試験のとりまとめ ・黄色灯活用に向けた指導・助言、取組の普及拡大 ・資材調整 ・生産物販売・PR	・黄色灯導入への助成 ・生産物PR ・関係機関との調整	・淡路地域に適した黄色灯の開発 ・黄色灯活用に向けた指導・助言、取組の普及拡大
関係者	淡路農業技術センター	南淡路農業改良普及センター		
役割	・黄色灯活用に向けた指導・助言、取組の普及拡大 ・黄色灯の効果確認	・黄色灯活用に向けた指導・助言、取組の普及拡大 ・黄色灯の効果確認		

その他